



国立大学法人豊橋技術科学大学 *Press Release*

2024年12月10日

令和6（2024）年度 第5回定例記者会見開催のお知らせ

日時：2024年12月12日（木）10:30～12:00
場所：豊橋技術科学大学 事務局3階大会議室
※YouTubeでのライブ配信は行いません。

<記者会見項目>

- ① 「グローバルテック・イノベーター」を育む多文化共修キャンパスの創出へ
～文部科学省・大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業に採択
されました～（別紙1）
- ② 2023年6月2日の大雨災害に関する研究報告会開催について（別紙2）
- ③ ダイバーシティ推進センターの活動報告（別紙3）

<本件連絡先>

総務課広報係 岡崎・太田

TEL:0532-44-6506 FAX:0532-44-6509



国立大学法人豊橋技術科学大学 Press Release

2024年12月10日

「グローバルテック・イノベーター」を育む多文化共修キャンパスの創出へ ～文部科学省・大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業に採択されました～

<概要>

このたび、文部科学省・令和6年度「大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業」（タイプⅠ：地域連携型）に、本学が申請した「グローバルテック・イノベーターを育む多文化共修キャンパスの創出」が採択されました。

<詳細>

「大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業」は、大学等が教育研究活動を行う国内外の地域における課題について、その抽出から分析、解決策の検討及び提案、社会実装に至るまでの過程において、日本人学生と外国人学生がそれぞれの文化的多様性を活かし共に学修することを「多文化共修」と位置付け、これらの共修科目や科目群・コース等の開発・実施・普及を推進するために、文部科学省が本年度から開始する事業です（令和6～11年度・6年間）。

事業を実施する大学等が、多文化共生社会の実現を牽引し、さらに多文化共修による教育研究活動が、国内外の課題解決策の提案や社会実装の先にある「ソーシャルインパクト」の創出につなげていくことが期待されています。

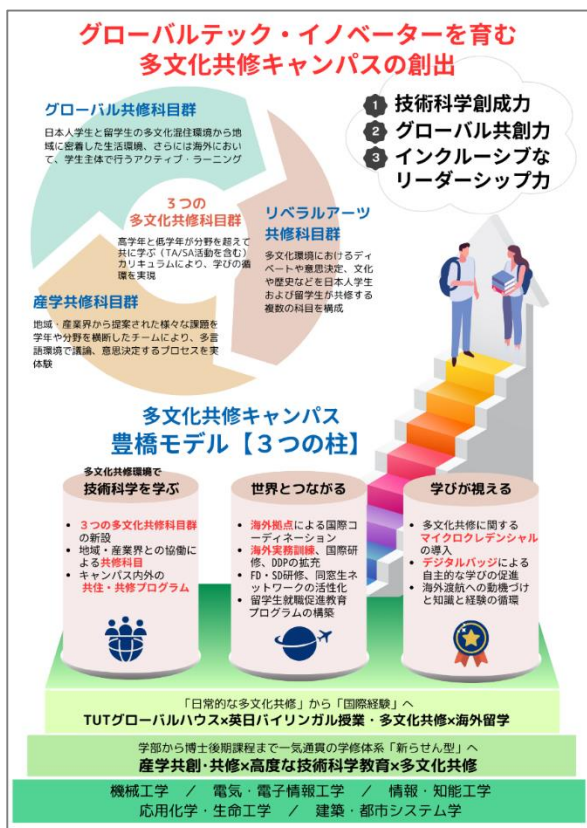
本学が採択された「タイプⅠ：地域連携型」は、大学等が所在する、ないし教育研究活動を行う地域等との連携による多文化共修科目等の開発・実施等に関する取組を支援の対象とするものです。

「グローバルテック・イノベーターを育む多文化共修キャンパスの創出」では、本学の強みを生かした3つの柱『技術を科学する共修キャンパス』、『世界とつながる共修キャンパス』、『学びが視える共修キャンパス』による共修キャンパスを創出することで、我が国の伝統的なものづくり技術とグローバル時代の最先端技術を融合し、欧米の模倣ではなく日本独自の強みを基盤とするグローバルイノベーションを生み出すために必要な力、

- (1)技術科学創成力：問題の本質を探り当て、社会を変革する技術をデザインする力
- (2)グローバル共創力：多様な価値観・知識・経験を持ったメンバーとチームを構成し、共に学びながら共創する力
- (3)インクルーシブなリーダーシップ力：チームメンバーの文化や個性の違いを超えて共感を醸成し、チーム全体を牽引する力

を有する『グローバルテック・イノベーター』を育成し、10年後・20年後の我が国のものづくりに大きく貢献するという構想です。

本事業による3つの柱創出を通して、地域における「グローバル・ハブ」として、本学と地方自治体や産業界が双方向的に連携する仕組みを構築することで、留学生と地域の相互理解を促進し、グローバルマインドを地域とともに醸成し、成果を「多文化共生のまちづくりのモデルケース＝豊橋モデル」として他大学等の好事例として横展開し、波及・普及させることを目指しています。



広報担当：総務課広報係 岡崎・太田
TEL：0532-44-6938 FAX：0532-44-6509



大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業

グローバルテック・イノベーターを育む 多文化共修キャンパスの創出

2024.12.12

事業担当責任者：特命理事・副学長 中内 茂樹

国立大学法人
豊橋技術科学大学

目次

- これまでの本学の国際化に関する取り組みとその効果
今年度新たに採択されたプログラム（ERASMUS+、大学の世界展開力強化事業）
- **ソーシャルインパクト創出支援事業とは？**
- 本学の特色（学部大学院一貫教育）
- **ソーシャルインパクト創出支援事業について**
 1. 本事業で育成する人物像
 2. 本事業が目指す「共修キャンパス」
 3. 「3本の柱」で実施すること
 4. 3つの多文化共修科目群・特色ある科目
 5. なぜ豊橋か？－豊橋市はものづくり県にある多文化共生都市
 6. 本事業による「ソーシャルインパクト」
 7. 工程表

これまでの本学の国際化に関する取り組みとその効果

- | | |
|--------------------------------|------------------------|
| ・ 博士課程教育リーディングプログラム（複合領域型「情報」） | 平成25（2013）年～令和元（2019）年 |
| ・ スーパーグローバル大学創成支援事業 | 平成26（2014）年～令和5（2023）年 |
| ・ 大学の世界展開力強化事業～日-EU戦略的高等教育連携支援 | 平成26（2014）年～令和5（2023）年 |

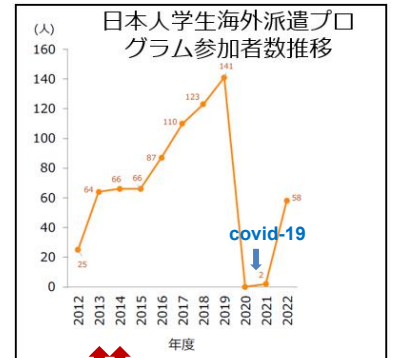
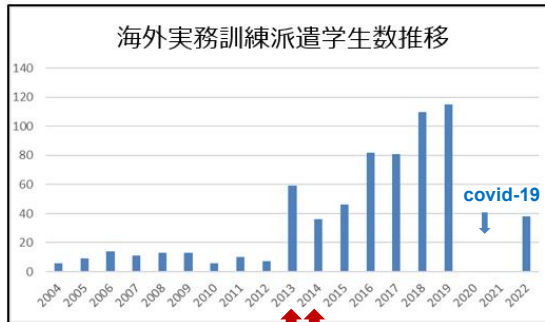
【留学生比率の増加】

SGU事業を契機として導入した英日バイリンガル授業等により学内教育の国際化が加速化し、留学生数及び比率の伸びに繋がった

年度	全学生数	留学生数	留学生比率
2016	2215	272	12.3%
2017	2143	317	14.8%
2018	2094	368	17.6%
2019	2105	363	17.2%
2020	2084	342	16.4%
2021	2032	334	16.4%
2022	2038	342	16.8%
2023	2028	312	15.4%

【海外派遣学生数の増加】

バイリンガル授業に加え、TUTグローバルハウス（日本人学生と留学生の混住宿舎）を活用した多文化共居環境や、国際共同学位プログラム（DDP）の構築等により、学生の国際経験に対する関心が高まり、海外実務訓練（2ヶ月間）や海外派遣プログラム（3ヶ月～1年間）参加者数は年々増加している



<今年度新たに採択されたプログラム>

- ・ ERASMUS+（エラスムス・ムンドゥス修士プログラム）（2024年～2029年）「近未来クロスリアリティ技術を牽引する光イメージング情報学国際修士プログラム」
- ・ 令和6年度大学の世界展開力強化事業－EU諸国等との大学間交流形成支援－（2024年～2028年）「グリーンイノベーション社会を牽引するグローバル半導体人材育成プログラム」

2

国立大学法人
豊橋技術科学大学



「教育・文化執行機関(EACEA)」による **ERASMUS+**
(エラスムス・ムンドゥス修士プログラム)(2024年～2029年)
「近未来クロスリアリティ技術を牽引する光イメージング情報学国際修士プログラム(Master of Science in Imaging and Light in Extended Reality:IMLEX)」(IMLEXプログラム)の第2期

エラスムス・ムンドゥス修士プログラム(EMJM) IMLEXプログラム 概要



With the support of the
Erasmus+ Programme
of the European Union



IMLEX
Master of Science in
Imaging and Light in
Extended Reality
ERASMUS MUNDUS JAPAN

<フルパートナー>

- ・ 東フィンランド大学(フィンランド)
- ・ 豊橋技術科学大学(日本)
- ・ ルーヴェン・カトリック大学(ベルギー)
- ・ サンティエヌ・ジャン・モネ大学(フランス)

<アソシエイト・パートナー>

- ・ ソニーコンピュータサイエンス研究所(日本)
- ・ Varjo(フィンランド)
- ・ YLE Innovations(フィンランド)
- ・ オタワ大学(カナダ)
- ・ 千葉大学、宇都宮大学(日本)
- ・ 産業技術総合研究所(日本) 等

【学生モビリティ】



第1セメスター：
フォトニクス基礎



第2セメスター：
イメージング専攻



サマー
スクール



第3セメスター：
イメージング、
ライティング、
XR



第4セメスター：
修士論文執筆

修士(理学)
EU側3大学の
ジョイントディグリー

修士(工学)
豊橋技術科学大学

3

国立大学法人
豊橋技術科学大学

令和6年度大学の世界展開力強化事業

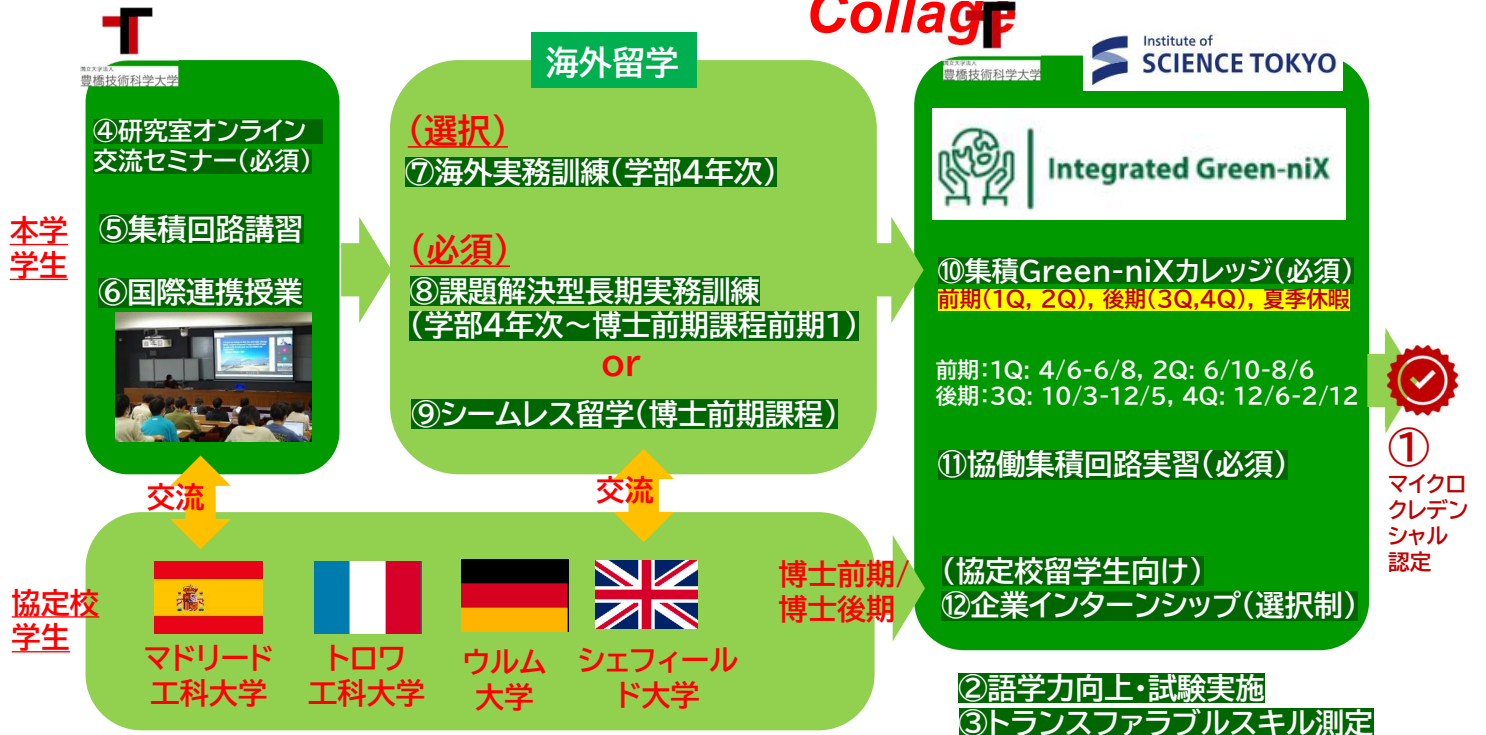
－EU諸国等との大学間交流形成支援－(2024年～2028年)

EUの連携大学と短期学生交流を実施する

「グリーンイノベーション社会を牽引するグローバル半導体人材育成プログラム」

プログラム概要

Global Green-niX Collage



4

国立大学法人

豊橋技術科学大学

ソーシャルインパクト創出支援事業とは？

大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業

令和6年度予算額(案)

18億円

(新規)



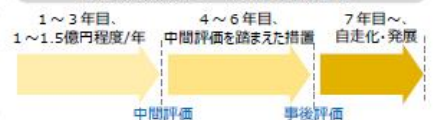
背景・概要

- 大学の教育・研究活動を支えるのは、優れた人材。国際的な人材獲得競争が激化する中で、大学は研究機関としてだけでなく、教育機関として多様性を活かしたイノベティブな人材育成を行うとともに、我が国の質の高い大学教育を海外でも展開してその認知度を高め、優秀な人材を育成・獲得していくための体制を強化していくことが急務
- 留学生30万人計画の達成の過程を通じ、英語による授業科目や英語のみで学位を取得できるコースも増加し、一定の国際化が図られている一方、外国人留学生と日本人学生が深く関わり相互研鑽に励むための環境が十分に整っていない、出口に着目した受入れが不十分等の課題も顕在化

事業実施期間

令和6年度～令和11年度(予定)

事業実施のイメージ(予算措置は6年)



教育未来創造会議第二次提言に掲げられた目標の実現に向け、国内外での国際的な共修のための体制の構築等を通じ、更なる大学の国際化の推進、日本人留学生の派遣、優秀な外国人留学生の受入れ・定着それぞれが相互に作用する好循環を創出

教育未来創造会議第二次提言「未来を創造する若者の留学促進にシナチブ＜J-MIRAI＞」(令和5年4月27日)

- 今後の方向性
 - 多様な文化的背景に基づく価値観を持った者が集い、理解し合う場が創出される教育研究環境、高度外国人材が安心して来日できる子供の教育環境の実現を通じて教育の国際化を進める
- 具体的方策
 - 教育の国際化の推進・徹底した国際化やグローバル人材育成に大学が継続的に取り組むような環境整備
- 2033年までの目標
 - 日本人学生の派遣
 - 学位取得等を目的とする長期留学者の数: 6.2万人→15万人
 - 協定などに基づく中短期の留学者数: 11.3万人→23万人
 - 外国人留学生の受入れ・定着
 - 外国人留学生の数: 31.2万人→38万人
 - 留学生の卒業後の国内就職率: 48%→60% (国内進学者除く)

事業内容

7月申請、10月面接審査

I. 地域等連携型

①国際共修の全学的な実施体制の構築、②出口に着目した留学生受入れの質の向上、③地域社会と連携した活動等を実施 ※なお、予算措置対象は主に①のみを想定

- 件数・単価: 10件程度×約100～150百万円
- 交付先: 国公私立大学(連携機関として短期大学・高等専門学校含む)
- 地域社会との連携による国際的な共修科目を体系的に組み入れ、外国人留学生が我が国への理解・共感を深めるとともに、日本人学生が日常的に国際経験をj得るようなカリキュラムの国際化を図る
- 自治体や企業等との有機的な連携による定着支援や地域での国際交流活動を通じ、カリキュラム外も含めたキャンパスライフ全般において外国人留学生が日本社会に溶け込み、共生していく環境を構築する

外国人留学生の受入れ増大、大学を核とした共生社会の実現

II. 海外展開型

既存の海外大学内外在拠点の活用等により、学生を送り出せる環境の整備や、現地での共修環境の構築を実施

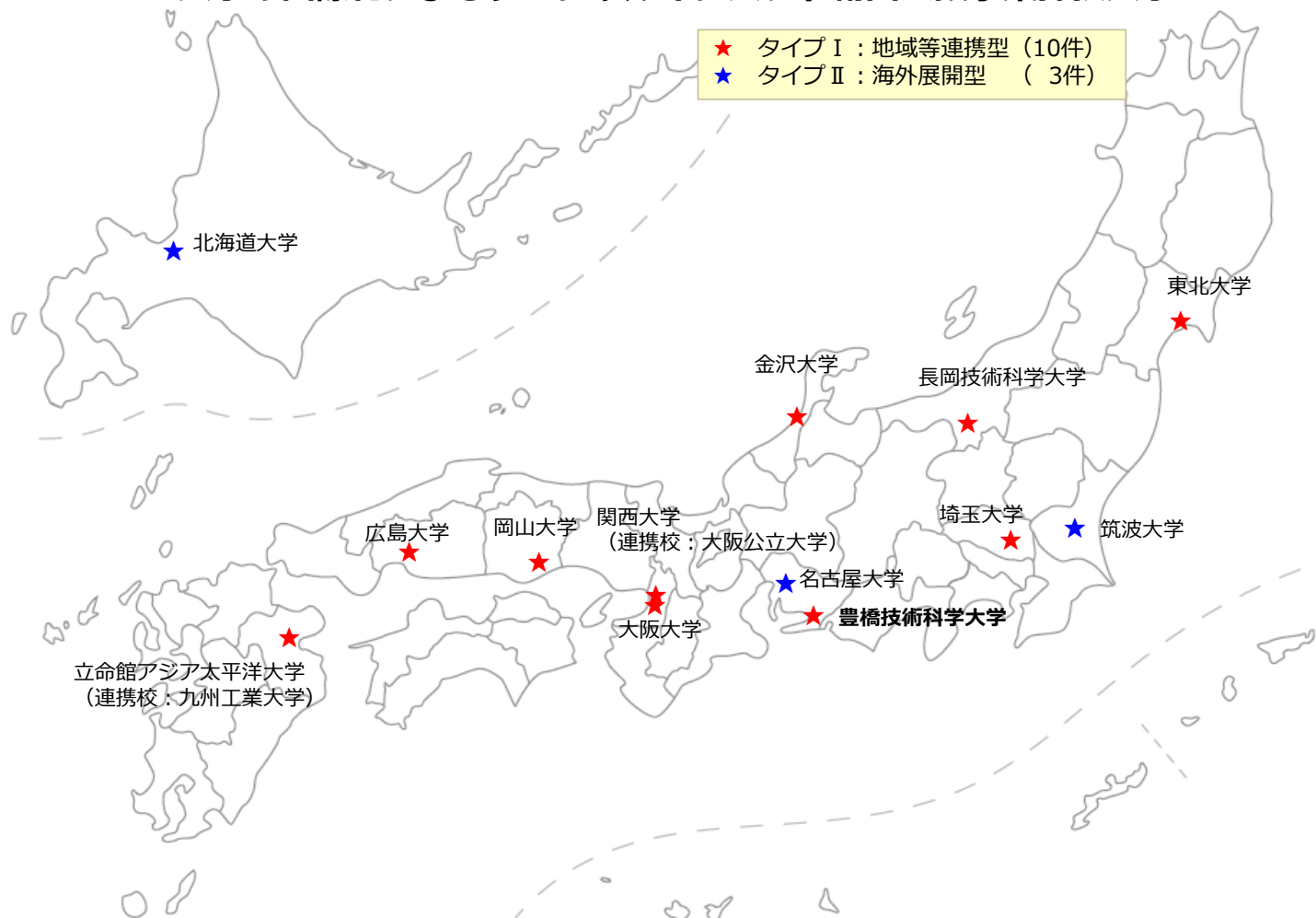
- 件数・単価: 3件程度×約150百万円
- 交付先: 国公私立大学
- 海外で教育活動を展開し、現地大学の学生との共修等を通じたグローバルな学びや国際的ネットワークへの参画の実現を図る
- カリキュラムの一環として、学部レベルから大学院に至る各段階に応じたグローバル人材・価値創造人材育成に資するプログラムを構築し、日本人学生の送り出しを行う

日本人学生の留学促進、海外での日本の大学のプレゼンス向上へ

(担当: 高等教育局参事官(国際担当))

5

大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業採択大学



6

国立大学法人

豊橋技術科学大学

国立大学法人 豊橋技術科学大学

技術科学を基盤とした学部・大学院一貫教育

1976年進学意欲の高い高専卒業生の受け皿として設立

- 在籍者の8割が高専出身者
- キャンパス内学生宿舎に775名（収容定員）
（留学生と混住のグローバルハウスに180名）

【本学の主な特色】

高度技術者育成、らせん型教育、高専との強い連携、大学院教育に重点、次世代半導体研究、活発な国際交流、多様な産学官連携と地域社会との連携

NHKロボコン 国内3連覇
(2022, 2023, 2024)

ABUロボコン
2023 グランプリ（優勝）
2024 ベスト4、最高技術賞

採用を増やしたい大学：全国1位（※）
授業改善に取り組む大学：全国1位（※）

※日経キャリアマガジン 2023-2024

【在籍者数 2024年5月現在】

学年	B1	B2	B3	B4	M1	M2	D1	D2	D3	計
学生数	90	93	509	500	412	400	27	26	33	2,090

7

国立大学法人

豊橋技術科学大学

1. 本事業で育成する人物像

我が国の伝統的なものづくり技術とグローバル時代の最先端技術を融合すること、欧米の模倣ではなく日本独自の強みを基盤とするグローバルイノベーションを生み出すために必要な3つの力を身につけたグローバルテック・イノベータを育成する。

① 技術科学創成力

問題の本質を探り当て、社会を変革する技術をデザインする力

② グローバル共創力

多様な価値観・知識・経験を持ったメンバーとチームを構成し、共に学びながら共創する力

③ インクルーシブなリーダーシップ力

チームメンバーの文化や個性の違いを超えて共感を醸成し、チーム全体を牽引する力



2. 本事業が目指す「共修キャンパス」

■ 技術を科学する共修キャンパス

- 学年・分野を超えて共に学ぶ3つの多文化共修科目群
- 地域・産業界との協働による共修科目（産学共修ものづくり研究）
- キャンパス内外での共住と学生主体のアクティブラーニング

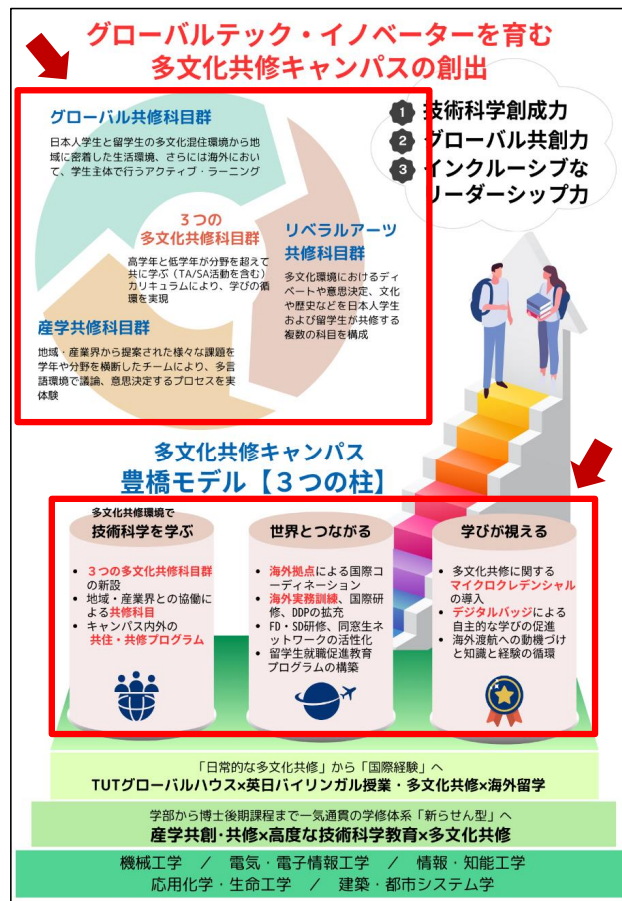
■ 世界とつながる共修キャンパス

- 海外拠点（マレーシア）を活用した国際コーディネーション
- 海外実務訓練、国際研修、ダブルディグリープログラムの拡充
- 世界展開力（EUとの半導体連携：R6～）、Erasmus+（XR: 2024～）
- FD・SD研修、海外同窓生ネットワークの活性化
- 留学生就職・定住促進のための地域と連携したプログラム実施

■ 学びが視える共修キャンパス

- 多文化共修科目群に対しマイクロクレデンシャルを導入
- デジタルバッジによる自主的な学びの促進
- 海外渡航への動機づけと知識と経験の循環

地域（豊橋・東三河・東海）における「グローバル・ハブ」として、本学と地方自治体や産業界が双方向的に連携する仕組みを構築することで、留学生と地域の相互理解を促進し、グローバルマインドを地域とともに醸成する



3. 3本の柱で実施すること

「グローバルテック・イノベーターを育む多文化共修キャンパスの創出」＝「豊橋モデル」

1の柱『技術を科学する共修キャンパス』

- ・英日バイリンガル授業の全学展開、英語のみで学位が取得できる大学院博士課程国際プログラムと一般学生大学院教育カリキュラムの効果的な連携・融合
- ・人文科学分野に英語による学生・地域共修型の多文化共修科目（必修）の新設
- ・学年（階層）や分野を横断する地域や産業界との産学共修科目（必修）の新設
- ・留学生と日本人学生主体のグローバル・リーダーズ演習、学生宿舎を中心としたグローバル共修生活学習プログラムの全学展開

2の柱『世界とつながる共修キャンパス』

- ・海外実務訓練による日本人学生の派遣拡大、留学生の国内実務訓練の強化
- ・国際共同学位プログラム等による日本人学生の留学、留学生の受入拡大（DDP、単位取得型留学）
- ・海外留学の障壁を下げる授業の一部を海外大学教員が英語で行う国際連携授業の拡充
- ・中長期多文化共修グローバルFD・SD研修（高専との連携含む）による教職員の実践英語能力向上
- ・マレーシア海外拠点による国際共修、産学共修、グローバル及び技術科学共修の場としての拠点強化及びペナン企業等との連携強化
- ・国際コーディネーター配置による人的ネットワーク形成、重層的な人材循環・世界拠点の形成
- ・海外同窓生ネットワークの拠点化による接続強化
- ・地域、企業等と留学生をつなぐ地域・産学共修と就職支援の連携による接続強化

3の柱『学びが視える共修キャンパス』

- ・デジタルバッジ積み上げ型学修ポートフォリオシステム、ディプロマサプリメントシステム構築
- ・高専モデルコアカリキュラムと連携したトランスファラブルスキルの測定、可視化
- ・デジタルバッジ取得による留学支援、国際共修サポーターSA、多文化共修や産学共修TA制度及び選抜評価制度の導入
- ・マイクロクレデンシャルの導入による学習履歴の可視化と学びのサイクル確立

10

国立大学法人

豊橋技術科学大学

4. 3つの多文化共修科目群・特色ある科目

産業界及び地域と連携した実践的な科目群：産学共修科目群（学部2年次正課）

「産学共修ものづくり研究」



- 学部第2年次向けの必修科目（英日バイリンガルまたは英語開講）
- 博士後期課程の必修科目である「高度技術科学者育成特論」と連動
- 実社会の課題解決として製品試作までを実施する **本学独自の進化版PBL（Products Based Learning）**
- 分野横断チームにより実施
 - D1（4月入学日本人学生）＋D2（10月入学大学院博士課程国際プログラム留学生）が、複数企業からのメンターと連携して学部2年次生を指導
 - 成果物（試作品）に加え、学部2年次生：特許申請やスタートアップ等、アントレプレナーシップやイントレプレナーシップの基本的な概念、博士後期1年次生に対しては事業のスピナウトを理解させる
 - 特に優れた成果物（試作品）については、ビジネスプランコンテストに参加する課外活動団体への参加を学生に促し、起業家精神の涵養を図る

国立大学法人

豊橋技術科学大学

【科目名（科目区分）】正課 哲学対話論（リベラルアーツ共修科目群・選択必修）

【概要】学部3年次・全学対象・英日バイリンガル（市民公開回は日本語）

「対話力/アカデミックスキル」を養成しながら、リベラルアーツとは何かを知り、「大学での学び方」を身に付けることを目標とする。技術は人間と社会の中にある。「もの」をつくりだすスペシャリストとして技術者は、技術や製品の意味や価値をも考えなければならないが、それはしばしば簡単には答えの出ない問いになる。（1）簡単には答えの出ない問いを、辛抱強く協働して、探究していくための方法と態度を身に付けること、（2）異質な他者との対話を通して、自己と他者の意見をともに尊重しつつ、合意形成（共通理解）をつくりだしていくための方法と態度を身に付けること、の2つの目的を設定する。これらによって、「対話する技術者」のための基礎的素養を陶冶する。なお、講義の一部を市民向けに公開する。



【取組名（科目区分）】正課外 グローバル共修生活学習プログラム（グローバル共修科目群） （非正規生の外国人留学生を含む全ての学生対象）

【概要】TUTグローバルハウスに居住する日本人学生と留学生が中心となり企画・実施する日常生活における異文化交流や集団生活における課題解決型の学生主体の教育型学生宿舎プログラムであり、全学生宿舎のみならず、非正規生を含めたあらゆる留学生と日本人学生、地域、企業等が共修する。正課外活動としてマイクロクレデンシャル対象とし、「学生自身による学習成果の可視化」にグローバルな視点をより採り入れた学生の主体的で能動的な学びの可視化を学生、教職員、地域等にも共有する。グローバル共修生活学習プログラムを修了した大学院生をSA（メンター）として配置する。SAは学部生のサポートのみならず、地域コミュニティとの交流をはじめ、外部講師を招聘した講演会等を主体的に主催するなど、学部生へ様々な学修の機会を提供する。学部生が大学院生となったときは、次の世代の学部生のSAとなり、継続して実施できる循環型の学修、教育システムを運営する。

地域コミュニティとの交流の例：Global Lounge（市民参加型多文化共修企画）

豊橋市国際交流協会との連携より、豊橋市内にあるまちなか図書館で市民が自由に日本語や外国語で留学生と会話できる「GLOBAL LOUNGE」を開催し、市民と留学生の交流を活性化。市民は多文化共修によりグローバル感覚が身に付き、留学生は日本における日常生活で地域に触れることで国内定着につながる。



インクルーシブなリーダーシップ力を育むための仕組み

■ インクルーシブなリーダーシップ力とは？

- ・ チームメンバーの文化や個性の違いを超えて共感を醸成し、チーム全体を牽引する力
- ・ 普段から多様なバックグラウンドを持つ学生が交流し、チームビルディングする力をまず養う必要がある



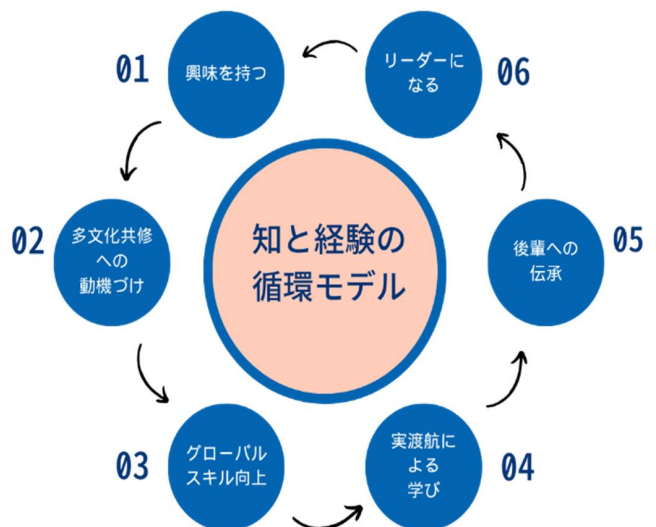
- 必修科目「産学共修ものづくり研究」や、正課外活動「グローバル共修生活学習プログラム」を新設し、国籍、学年や専門分野、国際経験の違いを横断してチームを構成し、日常的に共通の課題をチームで解決する環境を充実させる取り組みを導入

- これにより、多様な構成の学生間で様々な知恵や経験が世代を超えて伝搬し、それが例えば海外経験への関心を高め、次に具体的な行動に繋がることを期待



知と経験の循環

インクルーシブなリーダーシップ力を育成する基盤的で重要な共修環境の効果の一つ



5. なぜ豊橋か？－ 豊橋市はものづくり県にある多文化共生都市

- 愛知県：日本一のものづくり県
- 豊橋市：ものづくり回廊の中心に位置



留学生がものづくりの現場と密接に関わりながら、
地域定着も期待できる国際共修環境を創出すること
は本学ならびにこの地域の重要なミッション

■ 豊橋市 歴史ある多文化共生都市

人口 369,330 人 2023.4現在

うち 外国籍 19,750人、人口の5%

ブラジル8,561人、フィリピン4,570人、ベトナム1,451人、
中国1,188人、韓国・朝鮮1,154人、等 78カ国

※在留外国人が多い市区町村ランキング
全国15位
地方都市で全国 1位



多文化共生に関する課題先進地域

順位	都道府県	人数
1	埼玉県川口市	39,270
2	東京都新宿区	38,856
3	東京都江戸川区	38,115
4	東京都足立区	34,380
5	東京都江東区	31,920
6	東京都板橋区	28,153
7	大阪府大阪市生野区	27,861
8	東京都豊島区	27,246
9	東京都大田区	25,637
10	東京都世田谷区	23,312
11	東京都葛飾区	22,958
12	東京都北区	22,760
13	東京都港区	20,989
14	東京都練馬区	20,985
15	愛知県豊橋市	19,434
16	千葉県船橋市	19,006
17	大阪府東大阪市	18,942

東海・信州国立大学連携プラットフォーム
による国立大学と東海・信州地域企業との
広域連携を計画

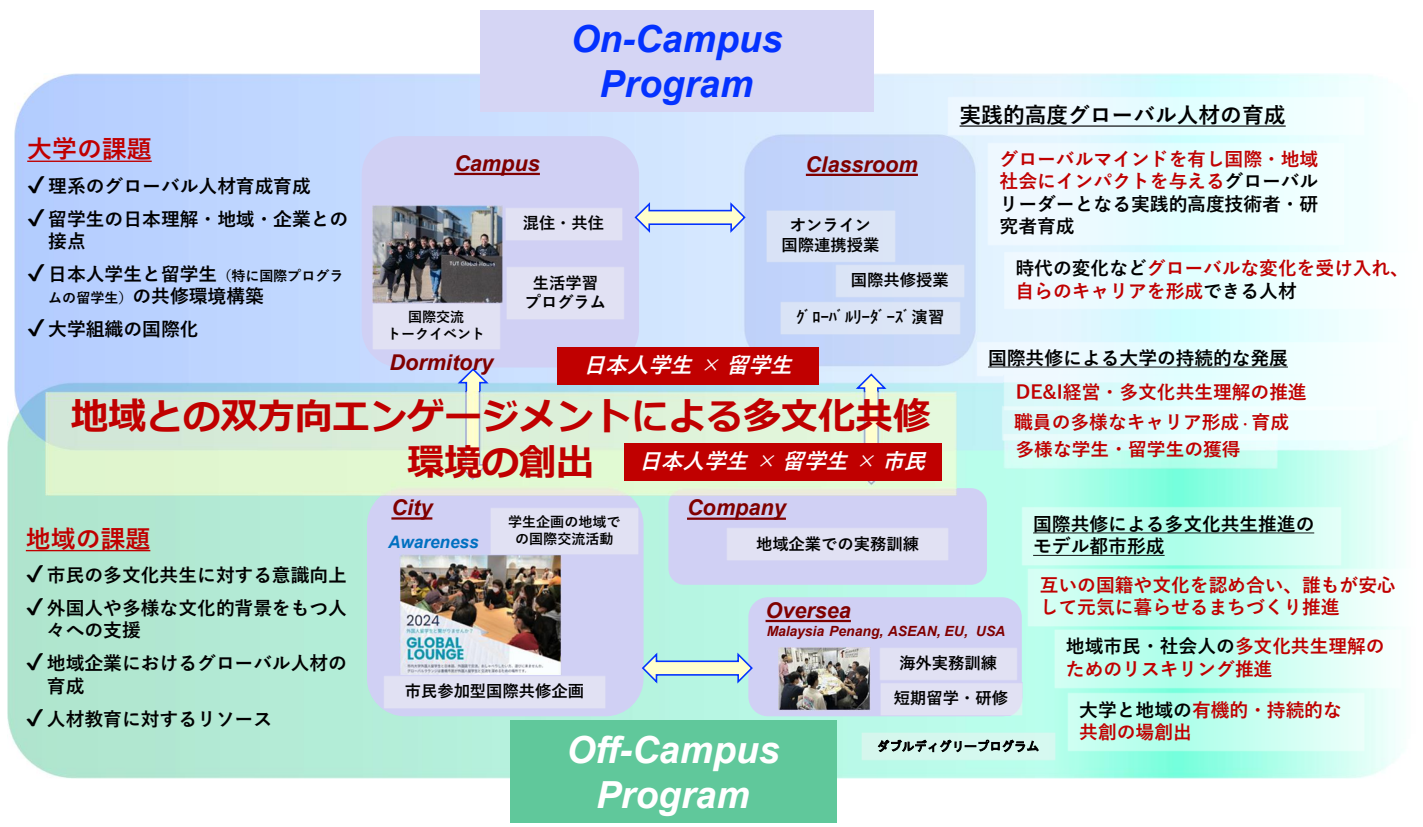


留学生の地域定着に向けて広域企業連携を計画



豊橋市との協働による多文化共生まちづくり

6. 本事業による「ソーシャルインパクト」



7. 事業工程表

※赤字は設定したKPIの抜粋

取組内容／年度	令和5 (2023)	令和6 (2024)	令和7 (2025)	令和8 (2026)	令和9 (2027)	令和10 (2028)	令和11 (2029)	目標
1の柱 技術を科学する 共修キャンパス	バイリンガル授業率 75.4% TOEIC600点以上 19.6% TOEIC400点以上 65.5%	英日バイリンガル授業の全学実施（比率増加） 82.1%						90.0%
		制度設計			3つの柱、3つの科目群に整理し、カリキュラム実施			
		生活・学習プログラムの実施			グローバル共修生活学習プログラムの実施／多文化共修科目数増加			
		英語／日本語能力の向上			600点以上 23.0%		600点以上 25.0%	
		アクティブラーニング環境整備・共住環境整備			400点以上 71.2%		400点以上 80.0%	
2の柱 世界とつながる 共修キャンパス	海外留学人数 69人(3.9%) 海外実務訓練数 40人 外国人留学生数 312人(15.4%) 市民参加型共修 0				日本人学生数の海外留学人数増加 124人(6.9%)		153人(8.5%)	
		海外実務訓練先増加			55人		70人	
					留学生数の増加 375人(16.0%)		440人(18.7%)	
		国内実務訓練先増加（留学生定着促進）						
		申請準備			留学生就職促進教育プログラム認定制度に申請・認定後は実施			
		地域との連携強化／共修科目の増加			6		10	
		グローバルFD・SDの実施						
		国際コーディネーター任命			人的交流、人材循環			
3の柱 学びが視える 共修キャンパス	デジタルバッジ 累計発行数0件	制度設計・導入		デジタルバッジ積み上げ型学習ポートフォリオシステム稼働 デジタルバッジ取得による留学支援、TA・SA等選抜評価制度実施 学修履歴の可視化システム稼働				
		制度設計・導入		マイクロレデンシャルシステム稼働		デジタルバッジ累計 発行数 3,225件		
		トランスファラブルスキルの測定、汎用的スキルの可視化						
その他	毎年度点検・PDCAサイクル（令和8年度に中間評価）							
	学内予算内在化／外部資金申請／50周年記念の一部充当							
①技術科学創成力、②グローバル共創力、③インクルーシブなリーダーシップを育成する								



2024年12月10日

2023年6月2日の大雨災害に関する研究報告会開催について**<概要>**

昨年度東三河地方で発生した大雨災害を対象に、令和6年度豊橋市大学研究活動費補助金事業の一環で、豊橋市防災危機管理課と共同研究を実施しています。夏に実施した豊橋市民向けのアンケートでは、約5000世帯への配布に対して、回答率43%の多くの回答を頂きました。このアンケートに対する解析結果と、豊橋市の行政対応、および最新の研究成果を合わせて、2025年1月11日(土)に穂の国とよはし芸術劇場 PLAT において、研究報告会を開催する運びとなりました。11月12日より、参加者の募集を開始しています。

<詳細>

開催日：1月11日(土) 13:00～16:00 (12:30開場)

場所：穂の国とよはし芸術劇場 PLAT アートスペース

定員：200名

参加費：無料

申込：<https://x.gd/R6nud>

Google Formが難しい方は以下の問い合わせからお願いします。



問い合わせ：豊橋技術科学大学 社会連携推進センター

e-mail: sharen@office.tut.ac.jp TEL: 0532-44-6569

<今後の展望>

本研究事業の成果をもとに、豊橋市防災危機管理課とは、継続して水害に強い街づくりのために協力していく予定です。住民アンケートでは、「災害当時は職場・学校にいた」という声が多数挙がっており、今後は企業とのハザード時の連携対応も重要であると感じています。また地球温暖化に伴い、将来発生し得るハザードに対する対策、展望についても研究を進める予定です。



本件に関する連絡先

広報担当：総務課広報係 岡崎・太田

TEL: 0532-44-6506 FAX: 0532-44-6509

2023年6月2日の豪雨災害のアンケート

6月下旬～8月末までの約2か月間で実施

- ・ 令和5年4月時点で住所がある世帯（18歳以上）
- ・ どの小学校区にも最低50票送付+人口比
- ・ その他は無作為（総世帯数の約3%）

質問内容の概要	
1	年齢
2	小学校区
3	情報収集元
4	関心のある災害
5	風水害への意識の変化
6	心配している被害
7	ハザードマップの理解度
8	活用できると思う情報元
9	今後参加したい防災イベント

最終配布数：4938通
最終有効回答数：2125通

Google Form：684
郵便：1441

回答率：**43%**

令和6年度豊橋市大学研究活動費補助金事業

2023年に発生した 東三河豪雨に関する研究報告会 ー甚大化する水災害への対応ー

プログラム

12:30	開場
13:00	開会挨拶 豊橋技術科学大学 社会連携推進センター長・教授 中澤 祥二
13:10	(1) 2023年6月2日大雨災害における豊橋市の行政対応 豊橋市役所防災危機管理課 課長 河合 優
14:00	(2) 2023年6月2日大雨災害に関するアンケート結果の報告 豊橋技術科学大学 建築・都市システム学系 助教 豊田将也
14:50	休憩 (10分)
15:00	(3) 2023年6月2日大雨災害に関する最新の研究報告 豊橋技術科学大学 建築・都市システム学系 助教 豊田将也
15:25	会場準備 (5分)
15:30	(4) 総合討議 (参加者から会全体の内容に関するQ&A)
16:00	閉会

日時 2025年 1月11日 (土) 13:00～16:00

定員 200名

参加費 無料

場所 穂の国とよはし芸術劇場PLAT アートスペース

問い合わせ：豊橋技術科学大学 社会連携推進センター
E-mail: sharen@office.tut.ac.jp TEL: 0532-44-6569

主催：豊橋技術科学大学
共催：豊橋市役所 防災危機管理課



上のQRコードから事前登録

<https://forms.gle/EsWHfb66W9SPGLVW6>

問い合わせ：
豊橋技術科学大学 社会連携推進センター
E-mail: sharen@office.tut.ac.jp
TEL: 0532-44-6569

2023年に発生した 東三河豪雨に関する研究報告会 ー甚大化する水災害への対応ー

プログラム

12:30 開場

13:00 開会挨拶 豊橋技術科学大学 社会連携推進センター長・教授 中澤 祥二

13:10 (1) 2023年6月2日大雨災害における豊橋市の行政対応
豊橋市役所防災危機管理課 課長 河合 優

14:00 (2) 2023年6月2日大雨災害に関するアンケート結果の報告
豊橋技術科学大学 建築・都市システム学系 助教 豊田将也

14:50 休憩 (10分)

15:00 (3) 2023年6月2日大雨災害に関する最新の研究報告
豊橋技術科学大学 建築・都市システム学系 助教 豊田将也

15:25 会場準備 (5分)

15:30 (4) 総合討議 (参加者から会全体の内容に関するQ&A)

16:00 閉会

日時

2025年
1月11日 (土)
13:00~16:00



定員

200名

参加費
無料

上のQRコード
から事前登録

場所

穂の国とよはし芸術劇場PLAT
アートスペース

〒440-0887 愛知県豊橋市西小田原町123

問い合わせ：豊橋技術科学大学 社会連携推進センター

E-mail: sharen@office.tut.ac.jp TEL: 0532-44-6569

主催：豊橋技術科学大学

共催：豊橋市役所 防災危機管理課





2024年12月10日

ダイバーシティ推進センターの活動報告

(1) PRIDE 指標 2024 (報告)

11月14日に一般社団法人 work with Pride が策定した LGBTQ に関する取組評価指標「PRIDE 指標 2024」において「シルバー」を取得しました。

(2) ダイバーシティ推進センター主催のシンポジウム (報告)

「工学分野のジェンダー平等に向けて～ジェンダード・イノベーションやフェムテック教育・研究の展開～」と題したシンポジウムを開催しました。講演前には、関係者が集い、名刺交換及び意見交換をする場も設けました。

(3) ダイバーシティ活動支援学生との活動 (報告)

オープンキャンパスおよび技科大祭にて、ダイバーシティの活動についてアピールしました。また、「ダイバーシティの多様性」をテーマとして、無意識の偏見など、私たちが持つ「個人の思考の幅」について考える座談会をダイバーシティ活動支援学生メンバーが主体となり開催しました。

(3) について、ダイバーシティ活動支援学生※より報告します。

※ダイバーシティ活動支援学生とは

ダイバーシティと工学の視点をもった新しい知や価値の創出を先導し得る先駆的な技術者・研究者の人材育成のため「ダイバーシティ活動支援学生」を募集し、採択された学生です。

担当者：ダイバーシティ推進センター事務局 森田・梅藤・上野 TEL:0532-44-6502

【ダイバーシティ推進センター URL】<https://equal.tut.ac.jp/>

広報担当：総務課広報係 岡崎、太田 TEL:0532-44-6506

ダイバーシティ推進センター

☆PRIDE指標2024 シルバー認定

☆ダイバーシティ推進センター主催のシンポジウム

☆ダイバーシティ活動支援学生との活動報告

豊橋技術科学大学
ダイバーシティ推進センター副センター長
沼野 利佳



PRIDE指標2024

LGBTQ+の人々が誇りを持って働ける職場の実現を目指して

work with Pride



1. Policy (行動宣言)
2. Representation (当事者コミュニティ)
3. Inspiration (啓発活動)
4. Development (人事制度・プログラム)
5. Engagement/Empowerment (社会貢献・渉外活動)

工学分野の ジェンダー平等に向けて

～ジェンダード・イノベーションや
フェムテック教育・研究の展開～

2024年
10月4日(金)
14:00～15:50

会場：豊橋技術科学大学 A-114講義室 + オンライン
※ 名刺・意見交換会 13:15～13:50 にA棟学生ホールで行います

お申込みは(Googleフォーム)から受け付けております。
右のQRコードまたは下記URLよりアクセスし、入力をお願いします。
<https://forms.gle/LBwPrQ3X3yU675q78>
申込み後にZoomコードをご案内します。

申込メ切：9月27日(金)

◆ プログラム ◆

・ 開会のあいさつ

若原昭浩 (豊橋技術科学大学 学長代行)

・「ジェンダード・イノベーションと私のポジティブ家族社会学」

石井クツ子氏 (お茶の水女子大学 理事・副学長)

基調講演20分+質疑10分

・「東三河県庁におけるフェムテック産業推進の取組について」

打田 淳氏 (愛知県東三河総局企画調整部産業労働課 課長)

講演15分+質疑5分

・「豊橋技術科学大学におけるジェンダード・イノベーション研究の展開」

沼野利佳 (ダイバーシティ推進センター 副センター長、次世代半導体・センサ科学研究所 教授)

河野剛士 (次世代半導体・センサ科学研究所 教授)

中鉢 淳 (先端農業・バイオリサーチセンター 准教授)

講演40分+質疑10分

・ 閉会のあいさつ

角田範義 (豊橋技術科学大学 理事・副学長、ダイバーシティ推進センター長)

主催：豊橋技術科学大学ダイバーシティ推進センター
連絡先：豊橋技術科学大学人事課人材育成推進係 (☎ 0532-44-6502 ✉ syokuin@office.tut.ac.jp)



学内のジェンダードイノベーション研究の紹介

2024年度より、多様な人々の健康向上のため、ジェンダード・イノベーション研究に、学内の2研究室に研究費を配分しており、それぞれ研究紹介を行った。

河野 剛士先生(次世代半導体・センサ科学研究所)
「半導体技術を応用した脳計測技術と性差研究への展開」



中鉢 淳 先生(先端農業・バイオリサーチセンター)
「鼻の病気と性差」



ダイバーシティ活動支援学生との活動



座談会
ダイバーシティの『多様性』
日時：11月14日（木）14:40～16:10
場所：図書館1階 コラボレーションエリア
テーマ：個人の思考の幅

みなさんには、無意識のうちに友達を傷付けてしまった経験はありませんか？
この座談会ではそういった無意識の偏見など、私たちが持つ「個人の思考の幅」について話し合います。
みなさんも座談会に参加して、ダイバーシティについて考えてみませんか？
きっと、それがより良い環境作りにつながります。

参加はこちらのコードまたはURLから
<https://forms.gle/j5c38VphAS3MiQnZ8>
〆切：10/31（木）

連絡先 電話番号：0532-44-6502
メール：syokuin@office.tut.ac.jp
企画：ダイバーシティ活動支援学生 主催：ダイバーシティ推進センター



5

地域のエンジニア・リトリートへの支援学生の参加



**2024
Engineers' Retreat
1st**

活躍しているエンジニアたちと交流しよう！

10月4日（金） エンジニア交流会
10月5日（土） 理系女子学生×エンジニア

応募用QRコード

- ▶ 企業で働く現役女性エンジニアと直接意見交換できます
- ▶ 製造業・建設業・運輸業の技術職の仕事について理解を深められます
- ▶ 参加費無料、豊橋駅から送迎バス有り、会議後昼食有り

応募用URL: <https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdKU7pm7UVix3ikdySXcTioy2C6v1AsOQ-wdKgtb22MqDag/viewform?pli=1>

check!
株式会社EmEco代表取締役社長 清水季子 の基調講演あります！

 米Forbes誌「The World's 100 Most Powerful Women」（世界で最も影響力のある女性100人）に選出。元日本銀行理事。2024年8月、人×産業のエンパワメントを支援する会社「EmEco」を創業。

6



- より働きやすく学びやすい職場環境のため、学内の意識や風土改革のための活動を行います。
- ダイバーシティ推進のための活動を地域や他大学と連携しながら積極的に行っていきます。
- ダイバーシティ推進のために、関連する情報を提供し「見える化」を行います。

2024年度の主な活動

1. 「ダイバーシティ」に関する広報活動
オープンキャンパスにおけるパネル展示
技科大祭におけるパネル展示

2. 座談会の実施
日常に溢れる多様性について知ろう！

T 広報活動

実施内容

1. ポスター展示の説明
 2. 参加者からの質問受付
 3. フィードバックの収集
- オープンキャンパス

8月24日（土）
来訪者 30人名

学生生活の充実化に向けた
ダイバーシティの存在を広報

技科大祭

10月12日（土）、13日（日）
来訪者 両日合計52名

「ダイバーシティ」を
気軽に理解できる場の構築



ダイバーシティの多様性 ～個人の思考の幅～

ダイバーシティ推進センター
2024年度 11月14日 座談会

目的：多様性を学ぶではない
どんなものにも多様性がある事を知る！

T 投影スライド例1：それぞれの違いを考える...

移動にも多様性がある！

歩行



健康的
時間がかかる

バイク



移動時間最小
高コスト

自転車



エコ・省時間
天候に弱い

どの選択も間違いでなく
それぞれが正解

T 投影スライド例2：自分の偏見を知るには...



議題例：毎日異なる食事をしたいか

人によって指向が異なるだけでなく、
「異なる食事」の定義は人によって違う
食事に求める事が人によって違う etc.



日常生活からダイバーシティを考える

座談会を通じた新たな気づき

- ① 誰しも偏見を持っていることを知る
- ② 人によって異なる考えと選択がある

この座談会を通して①と②を行うことで
どんなことでも誰かの選択や考えに対して
過剰な肯定も否定もなく
相手を尊重することができる一歩に！

令和6年(2024年)度 定例記者会見日程

施設見学会	4月11日(木)	10:30～	(事務局3階大会議室)
第1回	5月16日(木)	10:30～	事務局3階大会議室
中止	6月20日(木)	10:30～	事務局3階大会議室
第2回	8月8日(木)	10:30～	事務局3階大会議室
中止	9月19日(木)	10:30～	事務局3階大会議室
第3回	10月24日(木)	10:30～	事務局3階大会議室
第4回	11月14日(木)	10:30～	事務局3階大会議室
第5回	12月12日(木)	10:30～	事務局3階大会議室
第6回	1月16日(木)	10:30～	事務局3階大会議室
第7回	2月20日(木)	10:30～	事務局3階大会議室

コロナウイルス感染症拡大の状況によっては、オンラインにて開催することもあります。

定例以外に臨時で記者会見を行う場合があります。

以 上